

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

- A
- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
  - b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
  - c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
  - d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

- B
- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
  - b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

- C
- 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
  - b 脱字。
  - c 文末の句点の脱落。
  - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
  - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどうか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 文脈のねじれがある、また主述の対応に問題があると判断される場合は、要素ごとに加点した上で、全体から2点減点する。
- ③ 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

□ (50点)

問一各2点 解答通り

(a) 排除 (b) 形骸 (c) 寛容 (d) 醸 (e) 礎

問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A B

身の回りに無数にある森羅万象そのものであり、天照大神を頂点として氏族・社会ごとに序列化され、豊穰を感謝し、病気の平癒、他者への呪いなどを祈願する対象となる存在。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字 三十九字以下のもは全体不可（0点）

■要素A 「身の回りに無数にある森羅万象そのもの」…2点

- ・「森羅万象そのもの」という説明があれば2点与えてよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B 「天照大神を頂点として氏族・社会ごとに序列化され」…3点

- ・「天照大神」は「アマテラス」でも可。
- ・「氏族・社会ごとに序列化され」を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「豊穰を感謝し」…2点

- ・ほぼこのままの説明のみ許容。但し「豊穰」は「豊作・豊かな実り・豊かな収穫」といった説明でも可。

■要素D 「病気の平癒、他者への呪いなどを祈願する対象」…3点

- ・ 「病気の平癒」「他者への呪い」のいずれか一つだけ示されている場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 文末は「∴存在」という形式が原則。但し、答案全体が「カミ」がいかなる存在かについての説明になっていると判断できるなら許容してよい。明らかに不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素C参照

基準 配点4点

■模範解答例

A B

心の拠り所である 故郷のカミに物を捧げる。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…二十字 九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「心の拠り所である」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。何を捧げるのかが書かれていない場合など。

■要素B「故郷のカミに物を捧げる」…2点

- ・ 「故郷の」は、元の傍線部にあるのでなくても可。
- ・ 「物」は「供物」「食物」などでもよいが、「祈り」としている場合は1点とする。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 設問の「どうするのか」という問い方に対応する文末表現になっていると判断できれば可。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1点

■模範解答例

A

B

C

因果論や要素還元主義に基づいて再現可能な客観的事実を提示し、一面では人類の生活を豊かにしたけれ

D

E

ど、一方で何事も経済効果に換算する悪しき風潮や、証明できない事、また再現性のない人文学の研究成果などを否定するという弊害も生み出したと考えている。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十字 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「因果論や要素還元主義に基づいて」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「再現可能な客観的事実を提示し」…2点

- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「人類の生活を豊かにした」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「何事も経済効果に換算する」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば加点してよい。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「証明できない事、また再現性のない人文学の研究成果などを否定する」…4点

- ・ 「人文学の研究成果など」を欠いていても、「証明できない事、また再現性のない」とほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば3点与える。但し、「証明できない」と「再現性のない」のいずれか一つを欠く場合は2点
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素F 設問の「どのように考えているか」という問い方に対応する文末表現になっていると判断できればよい。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素H参照

基準 配点1点

■模範解答例

A 白くて汚れない米は、カミガミとの共有物であり捧げ物でもある特殊な収穫物であり、祀りや神事には不  
B  
C  
D  
E  
F 可欠な供え物として色々な意味合いで日本社会を支えてきたがゆえに、棚田での稲作は作業効率が悪く、維  
G  
持が大変で生産性が低くとも、人々は苦勞を承知で稲作に支えられた社会への帰属を望んだから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百四十字 六十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「白くて汚れない米」…2点

- ・「米」について「白い」「汚れない」という説明があればよい。
- ・「白い」「汚れない」いずれかを欠く場合は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「カミガミとの共有物であり捧げ物でもある」…2点

- ・「カミガミ」「カミ」という語は不可欠。
- ・「共有物」「捧げ物」のいずれかを欠く場合は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「祀りや神事には不可欠な供え物」…2点

- ・「祀り」「神事」はどちらか一方が示されていけばよい。
- ・「供え物」という語、あるいは同等の表現を欠く場合は1点。
- ・「祀り」「神事」がなく、「祭り」としている場合は0点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「日本社会を支えてきた」…2点

- ・ほぼこのままの説明のみ許容。

\* 要素E・Fはセットにして吟味する。その場合、「棚田」という語を欠いている答えは、E・Fのいずれかから1点減点する。

■要素E「棚田での稲作は作業効率が悪く」…2点

- ・「作業効率が悪い」とほぼ同等の説明がなされていけばよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。「棚田」が欠けている場合など。

■要素F「維持が大変で生産性が低く」…2点

- ・「維持が大変」「生産性が低い」といふ二つの要素が示されていけばよい。

- ・「維持が大変」「生産性が低い」のいずれか一方を欠く場合は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「苦労を承知で稲作に支えられた社会への帰属を望んだ」…2点

- ・「苦労を承知で」はなくてもよい。
- ・「稲作に支えられた社会への帰属を望んだ」とほぼ同等の内容が読み取ればよい。
- ・「稲作に支えられた」を欠く場合は1点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素H 「…から…ので」が原則的な文末表現の形。但し、理由説明答案として許容できる文末表現にな  
っていればよい。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

問一各2点 解答通り

- (a) 始末 (b) 曖昧 (c) 幾何 (d) 検証 (e) 恐縮

問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1.2点

■模範解答例

A

| だらだらと説明を書き連ねていく科学論文の表現法とは逆に、事物の一断面を切り取った 非常に短い表現

D

B

C

| により、そこから派生する膨大なイメージを相手に提示し、悠遠で広大な時空間を連想させるといふ表現の特徴。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字 四十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A「だらだらと説明を書き連ねていく科学論文の表現法」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「だらだらと」と同等の説明を欠いている場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

\* 要素B・C・D・Eは「俳句」を典型とする日本語表現の特徴の説明。セットにして吟味する。

■要素B「事物の一断面を切り取った」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「非常に短い表現により」…2点

- ・ 「非常に」はなくても可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「そこから派生する膨大なイメージを相手に提示し」…2点

- ・ 「膨大な」と同等の説明は必須。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「悠遠で広大な時空間を連想させる」…3点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 「悠遠」(時間)、「広大」(空間)のいずれか一つを欠く場合は2点。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 設問は「日本語表現の特徴」の説明を求めているので、答案がそれに見合った文末表現になっていると判断できれば可。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素H参照

基準 配点1点

■模範解答例

A 自然を人間から切り離し、それを道具か品物のようなものと考えて  
 B 征服しようとする西洋人の物質科学的  
 C な態度に対して、日本人は自然を全機動的な有機体と見なし、人間と親密な関係にある自然に同化しようとする。  
 D  
 E  
 F  
 G

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字 四十九字以下のものは全体不可(0点)

\* 要素A・B・C・Dが西洋、要素E・F・Gが日本の文化についての説明。それぞれをセットにして吟味する。

■要素A「自然を人間から切り離し」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「(自然を)道具か品物のようなものと考えて」…2点

- ・ 「道具」「品物」はいずれか一つが示されていればよい。ほぼ同内容の説明と判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「(自然)を征服しようとする」…1点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素D「物質科学的な態度」…1点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

■要素E「自然を全機動的な有機体と見なし」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「人間と親密な関係にある(自然)」…2点

- ・ ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・ 本文の「(自然を)自分のからだの一部のように思っている」という記述をそのまま使っても可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G「(自然に)同化しようとする」…2点

- ・ 「同化」は「順応」でも可。ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素H 設問は「比較文化論の内容」の説明を求めているので、答案がそれに見合った文末表現になっていると判断でき可。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素G参照

基準 配点16点

■模範解答例

A 模範解答例

英語では、提示した語の後に関係代名詞を付けてその内容の説明を加えていくので、短い文章では明快に表現できないような論理的説明に向いているように見えるが、関係代名詞以下を別の文にして指示代名詞や

接続詞でつなげば、同じ内容が自然で違和感のない日本語に翻訳可能であり、接続詞を正確に使用すれば日本語でも論理的な表現は可能であるから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百六十字 七十九字以下のものは全体不可(0点)

- \* 要素A・Bが英語表現、要素C・D・E・Fが日本語表現に関する説明。両者の対比、正しくなされているかをよく吟味する。
- \* 問題文の筆者は、文と文章の使い分けをしておらず、両方を文章としているようなので、答案でも両者の区別を厳密に吟味しなくてよい。

■要素A「英語では、提示した語の後に関係代名詞を付けてその内容の説明を加えていく」…3点

- ・語(言葉)の後に関係代名詞を付けてその内容を説明するというのが的確に説明できていると判断できる、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・関係代名詞が文章と文章をつなぐというような、曖昧な説明は2点。
- ・全体として、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「短い文章では明快に表現できないような論理的説明に向いているように見える」…3点

- ・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。「短い」がない場合など。

■要素C「関係代名詞以下を別の文にして」…2点

- ・英語では関係代名詞でつながれている箇所を、日本語にする時に切り離して別々の文にするということが説明できていると判断できれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「指示代名詞や接続詞でつなげば」…2点

- ・英語では関係代名詞でつながれていた文をその箇所切り離し、二文を指示代名詞や接続詞を使ってつなぐということが説明できていると判断できれば可。
- ・「指示代名詞」「接続詞」のいずれかを欠く場合は1点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「同じ内容が自然で違和感のない日本語に翻訳可能であり」…3点

・論理的な英語の長い文を、自然で違和感のない日本語に翻訳できるといことが説明できていると判断できれば可。

・「自然で」「違和感のない」はいずれか一つでよいし、ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 「接続詞を正確に使えば」「日本語でも論理的な表現は可能である」…3点

・ほぼ同内容の説明がなされていると判断できれば可。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。前半か後半のどちらかが欠けている場合など。

■要素G 「…から…ので」が原則的な文末表現の形。但し、理由説明答案として許容できる文末表現にな

っていないばよい。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

★2021年度 第3回 阪大本番レベル模試(人外法経)

目 (古文『胡蝶日記』) 採点基準 ※50点満点

問一 傍線部(ア)について、誰が何をどのような様子で聞いたのか、九〇字以内で説明しなさい。

基準 配点 一〇点

〔傍線部〕 よその事顔に聞き

〔模範解答〕  
A1書き手が、B7案内人が、自分をその孫だとも知らず、「三新田は( )かつて原野であつたのを( )白井という人物が( )藩校の学田にするために( )開墾したのだ」と説明するのを、C2他人事のような顔つきで( )聞いた( )。(八八字)

採点方法 各要素単独採点。ただし、要素Aは条件(赤字)あり。

字数 九〇字以内

〔ポイント〕

要素A【1点】書き手が、

※BもCも0点の場合は得点できない。

※「作者が・著者が・筆者が・白井千代梅が・千代梅が」等でもよい。「白井が」は×。

要素B【7点】案内人が、自分をその孫だとも知らず、「三新田は( )かつて原野であつたのを( )白井という人物が( )藩校の学田にするために( )開墾したのだ」と説明するのを、( )聞いた( )

※「かつて原野であつたのを」・「藩校の学田にするために」・「聞いた」の有無は不問。

※「案内人が」説明するのを(聞いた)の意があれば【1点】

※「自分をその孫」「白井という人物の孫・白井重行の孫」だとも知らず( )説明するのを(聞いた)の意があれば【3点】

書き手が白井という人物の孫であることは解答全体から読み取ればよい。このことが読み取れない場合は、この項目は【0点】とする。

※『三新田は』白井という人物が開墾したのだ』と説明するのを(聞いた)の意があれば【3点】  
「三新田」が明らかでなく「この地は」等になっている場合は、この項目は【2点】とする。

「白井という人物」は「白井・白井某」等でもよい。「白井」が明らかでない場合は、この項目は【0点】とする。

要素C【2点】他人事のような顔つきで( )聞いた( )。

※「聞いた」の有無は不問。

※「人ごとのように(聞いた)」の意があればよい。

問二(イ) 傍線部(イ)をわかりやすく現代語訳しなさい。

基準 配点 7点

〔傍線部〕

A2

かくゆくりなく

B2

来ぬる事の、

C3

嬉しうも本意ある事に思ふものから、

〔模範解答〕

A2

このように思いがけずも

B2

祖父が祀られた神社へやって来た事が、

C3

嬉しくも

心になつた事だと思ふけれども、

採点方法 各要素単独採点。

字数

指定なし。

〔ポイント〕

要素A【2点】かくゆくりなく ↓ このように思いがけずも

※「思いがけず」ができていたら【1点】。「意外にも・思ってもいなかったのに」等でもよい。

※右の【1点】が得点できている上で、「このように」もできていれば【2点】。「このように」は「こう」でもよい。

※「思いがけず」が得点できていない場合は、「このように」ができていても得点できない。

要素B【2点】来ぬる事の、 ↓ 祖父が祀られた神社へやって来た事が、

※「来たことが」の意があれば【1点】。

※右の【1点】が得点できている上で、「祖父が祀られた所へ」の意もあれば【2点】。

「祖父が祀られた神社へ」は「祖父が祀られた所へ」でもよい。

「祖父が祀られた」は「祖父が祭られた・祖父を祀った・祖父を祭った・祖父を崇めた・祖父を祝った・

祖父を神とした」等でもよい。

「祖父が祀られた」の意がない「神社へ・ここへ」等では得点できない。

要素C【3点】嬉しうも本意ある事に思ふものから、 ↓ 嬉しくも心になつた事だと思ふけれども、

※「嬉しい+心になつて」の意は「逆接」で【3点】。一つ欠けるごとにマイナス1点。

ただし、減点は要素Cの【3点】からし、【0点】以下にはならないこととする。

※「心になつて」の意は「望ましい・思い通りだ・満足だ」等でもよい。

※「けれども」は逆接であれば、「が・ものの」等でもよい。

問二(エ) 傍線部(エ)をわかりやすく現代語訳しなさい。

基準 配点 7点

「傍線部」

**A1**百年にして天下のあげつらひは定まると**B1**古の人も言ひしなれば、**C1**後の世にはなほ**D2**光**E2**いやまし給ふらむ

「模範解答」

**A1**百年で世の中の論議も定まると**B1**昔の人も言っているのだから、**C1**後世にはさらに**D2**おじいさまの威光も**E2**いよいよ増しなされることだろう

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

「ポイント」

要素**A1**【1点】百年にして天下のあげつらひは定まると ↓ 百年で世の中の論議も定まると

※「世の中」は「世間」等でもよい。「天下」のままは×。

※「議論」は「論議」でもよい。「評判・評価」等は×。

※「定まる」は「決まる・決定する」、または「落ち着く」等でもよい。

要素**B1**【1点】古の人も言ひしなれば、 ↓ 昔の人も言っているのだから、

※「言っているのだから」は「言ったのだから・言ったのであるから・言っているのであるから・言っているの」等でもよい。

要素**C1**【1点】後の世にはなほ ↓ 後世にはさらに

※「後世」は「後の世」のまま、もしくは「後代」等でもよい。「死後・来世・あの世」等は×。

※「さらに」は「一層」等でもよく、「やはり」でもよしとする。

要素**D1**【2点】光 ↓ おじいさまの威光も

※「威光」は「権威・威勢」等でもよく、また「功績・勲功・功劳・偉勲」等でもよしとする。

※右の意があっても「おじいさまの・祖父の」の意がない場合は【1点】。

要素**E1**【2点】いやまし給ふらむ ↓ いよいよ増しなされることだろう

※「増す+尊敬+推量」で【2点】。一つ欠けるごとにマイナス1点。

ただし、減点は要素**E1**の【2点】からし、【0点】以下にはならないこととする。

※「いよいよ増し」は「増し・ますます優れ・高くなり・大きくなり」等でもよい。

※「なされる」は「おくなる・くっていらっしやる」等でもよい。

※「だろう」は「くっているだろう・くしていることだろう」でもよい。

問三 傍線部(ウ)について、どのようなことを言っているのかがわかるように現代語訳しなさい。

基準 配点 7点

「傍線部」

A I 奉るべき幣は B I さらなり、 C 3 山はまだ青葉なれば、 D I まにまに E I と申さんやうもなくて、

「模範解答」

A I 奉納すべき幣は B I 言うまでもなく、 C 3 山はまだ青葉であるので紅葉もなく、 D I 『神の心のままに』 E I と申し上げて捧げるような手立てもなくて、

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

「ポイント」

要素 A 【1点】 奉るべき幣は ↓ 奉納すべき幣は

※ 「奉納す」は「お供えする・手向け申し上げる・神(神前)に捧げる・神(神前)に差し上げる」でもよい。「奉納・お供え・手向け」や「神に」の意が読み取れない「差し上げる」等や、謙譲の意がない「供える・手向ける」等は X。

要素 B 【1点】 さらなり、 ↓ 言うまでもなく、

※ 「もちろん」でもよい。

要素 C 【3点】 山はまだ青葉なれば、 ↓ 山はまだ青葉であるので紅葉もなく、

※ 「紅葉もなく・紅葉していないので」の意がない、「山はまだ青葉であるので・山の木は青いので・山の葉は緑であるので」等は 【1点】。

ただし、要素 D に『神の(心のままに紅葉、紅葉の錦)、を受け取ってほしい』とある場合は、要素 C に「紅葉もなく・紅葉していないので」の意がなくても、「山はまだ青葉であるので」の意さえあれば、【3点】を得点できる。

要素 D 【1点】 まにまに ↓ 『神の心のままに』

※ 『神の心のままに』の括弧『』は「」でもよく、付いていなくてもよしとする。

※ 『神の心のままに』は『心のままに』(神の(心のままに受け取ってほしい)) (神の(心のままに紅葉(紅葉の錦)を受け取ってほしい)) でもよい。  
『まにまに』のままは X。

要素 E 【1点】 と申さんやうもなくて、 ↓ と申し上げて捧げるような手立てもなく、

※ 「申し上げて捧げる」は「申し上げる・お願い申し上げる・祈り申し上げる・お願いする・お祈りする」等でもよい。

謙譲の意がない」と言う」等は X。

※ 「ような」(婉曲)の有無は不問。

※ 「手立て」は「手段・方法・たより・手がかり・つて」等でもよい。

問四 和歌(A)を現代語訳しなさい。

基準 配点 6点

〔該当和歌〕

A | 何をかも

B | 幣にしてまし

C | 2 秋を浅み

D | 1 おりてたむけん

E | 1 紅葉だになし

〔模範解答〕

A | 何を

B | 幣にし

ようかしら。

C | 2 秋が浅いので

D | 1 手折って捧げるような

E | 1 紅葉

さえない。

採点方法 各要素単独採点。ただし、要素Aは条件(赤字)あり。  
字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素A【1点】何をかも ↓ 何を。

※ BがXの場合は得点できない。

※ 「一体何を」でもよい。「何もかも・何でも」などはX。

要素B【1点】幣にしてまし ↓ 幣にしようかしら。

※ 「幣にしようか・幣にしようかなあ・幣にしよう」でもよい。

要素C【2点】秋を浅み ↓ 秋が浅いので

※ 「秋が浅いので・秋が深まっていないので・秋が深くないので」の意があればよい。

要素D【1点】おりてたむけん ↓ 手折って捧げるような

※ 「手折って」は「折って・枝を折って・木から折って」等でもよい。

※ 「捧げる」は「手向ける・奉納する・供える・差し上げる」等でもよい。

謙讓表現になっていなくてもよい。

※ 「ような」がない場合はX。

要素E【1点】紅葉だになし ↓ 紅葉さえない。

※ 「さえ」がない「紅葉もない・紅葉だけでもない・紅葉だけでもない」等はX。

問五(一) 和歌(B)を現代語訳しなさい。

基準 配点 6点

「該当和歌」

A | かしくも

B | いとど

C | 昔をしのぶ

D | 身は

E | 2

神の宮居をたちぞわづらふ

「模範解答」

A | 恐れ多くも

B | ますます

C | 昔を懐かしむ

D | 私

E | 2

神社を離れて旅立つことも  
できない

採点方法 各要素単独採点。ただし、要素Dは条件(赤字)あり。  
字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】かしくも ↓ 恐れ多くも

※「尊くも・もったいなくも・ありがたくも」等でもよい。

要素B【1点】いとど ↓ ますます

※「いよいよ」等でもよい。「とても・たいそう・非常に」等は×。

要素C【1点】昔をしのぶ ↓ 昔を懐かしむ

※「昔」は「昔」のままでもよいが、問五(2)の設問の解答を踏まえた「祖父の時代・祖父白井重行が活躍した往時・祖父が人々のために尽力した昔」等でもよい。

※「懐かしむ」は「思い出す・思いを馳せる」等でもよい。

要素D【1点】身は ↓ 私

※Cが×の場合は得点できない。

※「私」は「わが身・この身」でもよい。「身体・からだ・肉体」等は×。

要素E【2点】神の宮居をたちぞわづらふ ↓ 神社を離れて旅立つこともできない

※「神社から旅立でない(出発できない・出発しかねている)」等の意があればよい。

※「神社」は「社・祖父を祀る神社」等でもよい。これがない場合は【1点】。

※「神社」があっても「旅立でない(出発できない・出発しかねている)」ができていない場合は×。

問五(2) 和歌(B)について、ここで言う「昔」とは、どのような時のことか、五〇字以内で説明しなさい。

基準 配点 7点

〔該当和歌〕 かしこくもいとど昔をしのぶ身は神の宮居をたちぞわづらふ

〔模範解答〕

A2	書き手の祖父白井重行が、	B3	藩の重職にあって、藩校開設や新田開拓など、
C2	人民のために尽力し、	(A)	活躍した往時。(五〇字)

採点方法 各要素単独採点。ただし、要素B・Cは条件(赤字)あり。  
字数 五〇字以内

〔ポイント〕

要素A【2点】書き手の祖父白井重行が、 〽 活躍した往時。

※「書き手の祖父の時代・白井重行の時代・白井重行の生きていた時・重行の生前」などでもよい。

※「書き手の」がない「祖父の時代」などは【1点】。

※「重行」がない「白井の時代・白井氏の時代」等は×。

要素B【3点】藩の重職にあって、藩校開設や新田開拓など、

※Aが0点の場合は得点できない。

※「藩の重職にあった(時)」の意が読み取れれば【1点】。

※「藩校を開設した(時)・藩校のために働いた(時)」等の意が読み取れれば【1点】。

※「新田を開拓した(時)・三新田を作った(時)」等の意が読み取れれば【1点】。

要素C【2点】人民のために尽力し、

※Aが0点の場合は得点できない。

※「人のために働いた」、もしくは「人に尊ばれた・人に崇められた」等の意が読み取ればよい。